



令和5年度 小山市立小山中学校

第4号

令和5年7月20日発行

小山中学校長

林 剛

学校だより

〈教育目標〉

【自主】【健康】【奉仕】 志高く 夢叶える 小山中 ～「本気」で「元気」に「根気」強く 共に挑戦できる学校づくり～

70日間（授業日数）の「本気・根気・元気の挑戦」を終え、42日間の「メタ認知力アップの夏休み」へ

『「志を高く」いつでも心に希望をもって挑戦してほしい。』そのために「毎日主体的に『本気・根気・元気』の挑戦を続けてほしい。」「あなたは今日からどう変わりますか。」私から、全校生徒へそう言ってスタートした1学期70日間の挑戦が終わりました。今学期、教育課程を順調に展開できましたのも、保護者、地域の方々をはじめ、皆様の本校教育への多大なる御支援と御協力の賜物です。心より感謝申し上げます。

42日間の夏休みに入り、「小山中プライド」をもち、大きく成長した生徒たちの生活の中心は、学校から各ご家庭、地域へと移ります。生徒にとって夏休みは、各家庭での安心感を基盤に、自分自身を客観視する「メタ認知力」を高め、更に「主体性」を育むチャンスとなります。

1年生は小中生として「初めての夏休み」、2年生は3年生から様々な「バトンを引き継ぐ夏休み」、3年生は小中生であるとともに「受験生である夏休み」、各学年それぞれ目標を高く掲げています。志高く夢叶う小山中学校、学校教育を支える「家庭教育」と地域社会、また、「家庭教育」を支え、支え合う地域社会と学校教育で在り続けたいと思います。よろしくお願ひします。



短冊に願いを込めて(昇降口)

文部科学省のHPにある「家庭教育は、すべての教育の出発点」(要旨)を以下に掲載します。

例えば、毎日の生活の一場面。皆さんのご家庭では、どのように過ごしていますか？

- ・いつも家族で「おはよう」「ただいま」「おやすみ」などのあいさつを習慣にしている。
- ・早寝早起きを心がけている。
- ・できる限り朝ごはんは家族一緒に食べる。
- ・学校での出来事などについて、子供とよく話をする。
- ・テレビやゲームの時間などのルールを、親子で話し合っ決めている…。



家庭は、子供たちが最も身近に接する社会。少し立ち止まって、日常の家庭での生活を振り返ってみませんか。

今号では、「本気・根気・元気」で駆け抜けた学期末の様子を掲載します。

「一流の当たり前」を目指し「当たり前」に感謝をする学校 ～小山中プライドで志高く 夢叶える小山中～

7/20 1学期終業式 ～学校長式辞(要旨)～

始業式や入学式で私が述べたことに振れ、小山中プライドでの挑戦の成果を共有し「少しでも前進(新)できた人は立派です。」と褒めて認めて励ました。

「これからは、この日常を一流の“当たり前”に高めること、自ら“メタ認知力”を高めること、さらに“深く考える”こと、そして、そのために夏休みがあること。」を確認しました。


次に“当たり前”に感謝することについて投げかけました。“有る(存在する)ことが難しい有り難いこと”に人は感謝するが、“ありがたい”の

挑戦の成果とこれから

「本気」で、自ら学びに向かう小山中
「元気」に、自ら挑戦する小山中
「根気」強く、自ら質の高い行いができる小山中

一流の「当たり前」に高める
自ら「メタ認知力」を高める
+「深く考える」

⇒そのための
夏休み



反対の“当たり前”のことにはどのような態度を取っているか問いかけてみました。

そして、不慮の事故で首から下が動かなくなったものの懸命のリハビリで奇跡的に歩けるまでに回復した元中学校体育教師“腰塚勇人”さんのことについて話しました。「日本中で自分の体験を通した

「腰塚勇人」さんについて



「先生」として、学校に戻った後



左手はそこまで戻ったけれど、それが当たり前ではないことを右手が教えてくれる

講演をしている腰塚さんは、まだ麻痺が残り、ブルブルと震える自分の右手を指し、“この右手は宝物だ”と言うそうです。左手は右手よりも動くそうです。“左手はそこまで戻ったけれど、それが当たり前ではないことを右手が教えてくれる。だから右手は宝物だ”というのです。

この地球に空気が有り、今あなたがいて、自分の力で歩くことができること。そして、ここ小山中に友がいて、プライドをもって学んでいること、これらは全て特別なこと、努力と奇跡の賜物だとは言えないでしょうか。“当たり前は当たり前ではないこと”とは考えられませんか。当たり前に感謝すればするほど、自分自身と同様に、相手を大切にできますね。」と語りかけました。

最後に「42日間の夏休みは、このように深く考えたり、弱い自分に打ち克ち、メタ認知力をアップさせたりする絶好のチャンスです。さあ、あなたはこの夏どう行動しますか。」と締めくくりました。

「42日間の夏休み」は何のチャンス？
 ✓深く考える機会
 ✓弱い自分に打ち克つ
 ✓メタ認知力のアップ
 離れていても「当たり前」に感謝
 「小山中プライド」で「メタ認知力アップの夏休み」
 あなたはこの夏どう行動しますか

代表生徒の作文発表～小山中プライドでの前進(新)～

第1学年代表 生徒 (要旨)

「この1学期心に残った3つのこと、1つ目は部活動。最初はついて行けませんでした。先輩や先生のアドバイスで前よりも上達しました。2つ目は小学校とは全く違う運動会。全力で練習から取り組みクラスが団結しました。最後は初めて計画を立てて勉強を進めた定期テスト。計画どおり行かないこともありましたが今の自分は何ができて何ができないのかを知りました。夏休みに生かします。」



第2学年代表生徒 (要旨)

「あつという間の1学期、3つのが印象に残りました。1つ目は部活動で先輩ができたこと。プレッシャーでしたが仲間を支えて心と技を磨けました。2つ目は、学習面。よい結果が得られなかったので、夏休みに改善すべきことを探して努力します。3つ目は少し気が緩んだ学校生活。先輩に頼られる2年生になれるよう、六根を意識して昨日よりも今日をよりよくして充実した来学期を目指します」



第3学年代表生徒 (要旨)

「義務教育最終学年の1学期、2つの反省があります。1つ目はスタートダッシュを切れなかった勉強です。夏休みからしっかり受験勉強をして、志望校合格を目指します。2つ目は、自信が持てずにいた自分を変えようと努力を続けた部活動の引退です。地区総体個人ベスト8、団体3位で迎えた県大会、思い切ったプレーが出来ぬまま負けてしまい引退。この悔しさを繰り返さないよう自分から逃げない人となるという目標を得ました。これらをバネにこれから生活します。先生方と最高の部の仲間感謝しています。」



6/26 4年ぶり「みんなで協力、ピカピカ大作戦」を実施



小山中中学校区の伝統行事「みんなで協力、ピカピカ大作戦」を実施しました。小中一貫教育の取組として、「小山中プライドを胸に、小学生から憧れられること」を目指して、小山中生が母校である3つの小学校に出向いて、小学生と共に清掃を行いました。汗をかきコツを確認しながら、協力して一心に愛する校舎をきれいにする児童と生徒、確かな絆を深めました。

6/28 職員研修「おやじの会立ち上げの経緯と生徒指導」

初代のおやじの会会長、PTA会長を務められた沢登 剛 様を講師にお招きし、「困難対応的生徒指導」が機能せず、当たり前のはずの学校生活が脅かされた「おやじの会」発足当時の様子や、逃げる事無く向き合ったことから生徒が心を開くまでに至った経緯など、職員は食い入るようにご講話に聞き入りました。これまでの弛みない努力と多大なる協力の下に今があること、「課題予防的生徒指導」を的確に行うことはもとより「発達指示的生徒指導」即ち本校の柱である生徒の「メタ認知力」を本気になって高めることに、職員一同決意を新たにしました。



7/5 授業参観、学年PTA、PTA役員会を実施

昇降口は、合格祈願や部活動の活躍、学力アップなど、全校生徒と教職員の願い事が短冊に書かれた七夕飾りです。マナーよく、温かい眼差しで参観される保護者の方々に囲まれ、授業参観を各クラスで行いました。瞳を輝かせ、張り切って発表する生徒の姿から、本校の日常をご確認いただけたことと存じます。その後は学級・学年懇談、PTA役員会・理事会が行われ、夏休みの生活や学区内補導や小中祭、アルミ缶回収への協力について確認しました。



栄誉を称えて 褒章の記録 (6/24~7/17)

下都賀地区総合体育大会

- サッカー 第6位
- ソフトテニス 女子 ダブルス 4位
- 3年 ●●さん・●●さんペア

栃木県少年野球大会地区予選 第3位

栃木県中体連総合体育大会

- サッカー 第3位
- 卓球 女子シングルス 敗者復活 関東大会出場
- 1年 ●●さん ●●さん

